

大石三郎

北大古生物学の巨人たち関連セミナー



北大理学部地質学鉱物学科第二講座 第2代教授

1903年山形県米沢市に生まれ、1948年札幌市で亡くなる。1924年東北帝国大学理学部地質古生物学科に入学、矢部長克に師事し、中生代植物化石の研究に従事。1930年に新設された北海道帝国大学理学部地質学鉱物学科第二講座初代教授の長尾巧の下で助手、32年助教授に就任。岡山県成羽植物群を初めて系統的に研究、大石のコレクションは北大総合博物館植物標本の中核を成している。長尾巧とともに樺太でデスマスチルスとニッポノサウルスの発掘を行った。



UHR 3904 Taeniopteris

私と化石

— DNA から進化の謎を探る —

インドネシアで発掘されたシーラカンスの化石
昨年、新種のシーラカンスと分かり *Whiteia oishii* と命名された



(大石コレクション)

大石道夫

講師



東京大学名誉教授
公益財団法人かずさ DNA 研究所 理事長

1935年札幌市に生まれる。
1954年東京大学入学、1963年理学博士（生物化学専攻）。
1964年渡米、プリンストン大学博士研究員、ニューヨーク公衆保健研究所主任研究員、ニューヨーク大学医学部教授を経て、1979年東京大学教授。かずさ DNA 研究所、所長、同理事長。
専門は DNA 複製、組み替えの分子機構の研究、大腸菌の形質転換の発見などバクテリアの分子生物学、分子遺伝学、バイオテクノロジー。

2017年3月30日(木)

会場：北海道大学総合博物館 1階 知の交流

時間：15時00分開始（14時半開場）

入場無料・申込不要

北大教授で植物化石の研究が専門の大石三郎の長男として生まれた私にとって化石は幼時より非常に身近なものでした。しかし、病気で父が早逝したことから、医者を目指して、大学に入学しましたが、1953年のDNAの発見に触発されて、生物を分子レベル、特に DNA からの情報を重視する分子生物学者の道を歩み出します。しかし、ふとしたことから、化石の収集を始め、その魅力に取り憑かれ、現在世界から数百種類の主としてシーラカンスなど魚類の化石を集めるまでに至りました(大石コレクション)。

それに関するエピソードと、最近のシーラカンスのゲノム解読の結果から、特に我々の四肢の起源と進化について、興味ある成果が得られているので、進化のメカニズムに関する私の私見も合わせてご紹介します。

